

SUMH News Letter

1. カンボジア支援活動の新たな展開……………

青木勉(SUMH 理事長)

2. 現地訪問報告(

カンボジアにおける community mental health center
…………… 窪田彰(SUMH 理事)

3. 理事会・総会報告(SUMH の今後の展開)

…………… 丸谷俊之(SUMH 理事)

編集後記

青木利江子(SUMH 理事)

発行: 途上国の精神保健を支えるネットワーク
Supporters for Mental Health; SUMH

1. カンボジア支援活動の新たな展開 青木勉(SUMH 理事長)

カンボジア地域精神保健プロジェクトの行方

理事長 青木 勉

SUMH がカンボジアの地域精神保健プロジェクトを開始して20年目を迎えようとしています。この場をお借りして、会員の皆様のご支援に対し、厚くお礼を申し上げます。

当会の最近数年間の課題は、このプロジェクトをいかに現地化するかということでした。理事会では繰り返しこのテーマで話し合ってきましたが、活動を現地化するためにしばらく活動を継続すべきという意見と、撤退すべきという意見の、大きく分けると2つの意見が交錯していました。保健省との覚書である MoU を交わして、私たちは国際 NGO として、現地で活動することを保証されていますが、その期限が2019年11月末日に迫っていました。

現地訪問1回目(2019年6月) プロジェクトの今後についての現地との話し合い

今年 6 月には、私と青木利江子理事が現地に赴き、保健省精神保健部長、プロジェクト地であるシェムリアップ州保健局長、SUMH が運営している精神科リハ

ビリテーションセンターがあるシェムリアップ州病院長、外来のあるクララン病院長らとお会いし、MoU が失効する11月末をもってカンボジアから撤退する旨を伝えました。しかし、彼らは、活動の延長、少なくとも1年以上の延長を強く求めています。私たちの活動を引き継ぐための猶予期間が、少なくとも1年以上必要であるという意見でした。



一番右がシェムリアップ州病院精神科部長 Dr. Sovannnara

SUMH の精神科リハビリテーションセンターの前で

訪問から帰国後も理事会で検討を重ね、このプロジェクトを委譲するための保健省の担当者、そしてスケジュールを現地に決めるように求めましたが、なかなか回答が得られず、10月になって、現地は我々に保健省大臣との面会を求めてきました。



右から3人目が州保健局長の Dr. Kro Sarath、
一番左がカンボジア情報省の Mr. Kamol



中央が保健省精神保健部・薬物依存部部長の Dr. Sophal

現地訪問2回目（2019年10月～11月） プロジェクトの今後についての現地との話し合い 新たな展開

いよいよ MoU が失効するまで1ヶ月に迫った10月の理事会で、10月末から11月上旬にかけて、窪田理事と私が現地に再度赴き、保健省大臣と面会をすることが決まりました。早速保健省大臣に会見するための公式文書を国際速達郵便で送り、精神保健部長、州保健局長、州病院長、クララン病院長、そしてシェムリアップ州で地域精神保健活動を開始しようとしている Dr. Sylvia との面会を調整して、10月31日成田空港からプノンペンに向けて出発しました。

もっとも重要なタスクである保健省大臣との折衝の日時は、最後の最後まで決まりませんでした。私たちの訪問をいつもコーディネートしてくれている、SUMH カンボジアの OB であるカンボジア情報省の Kamol 氏も再三再四保健省の友人に折衝をしてくれて、会談を確約しようと努力してくれましたが、無理でした。11月1日に大臣とお会いする予定でプノンペンに滞在し

ましたが、結局お会いできず、その日の便で急遽シェムリアップ州に飛びました。すると、次に重要であると考えていた州保健局長が、ドイツに出張していて不在であることがわかり、再度落胆。気を取り直して、州病院長とお会いしました。州病院長からは、長年の当会の功績に対して深い感謝の言葉とともに、銀？のお皿もいただきました。また、Dr. Sylvia とお会いして、SUMH の活動を引き継ぐ意思を確認しましたが、もともとスイスで臨床心理士として研究を長くされてきた彼女は、精神保健医療全般ではなく、研究ということに焦点を絞っていきたいとの意向が強く、私たちのプロジェクトの引き継ぎは困難と判断しました。

地域精神保健プロジェクトの公的システム化への道筋に向けた新たな3年計画の取り組みへ

その後、プノンペンに戻り、大臣との面会の日時は未定のまま、次官との面会は可能との知らせを受け、3日朝 8 時保健省の開庁の時間に、保健省に赴き、面会を待ちました。小一時間ほど待たされたのち、次官との話し合いが始まりました。2001年からの SUMH の現地活動をまとめたスライドを示し、MoU の期限が終わる 11 月いっぱい SUMH はカンボジアから撤退すること、SUMH の現地活動を州保健局に委譲するため、現地スタッフを州保健局のスタッフとして雇用してほしいことをお願いしました。また、地域精神保健の向上のため、公的な地域精神保健センターの設立を提案し、もしその希望があれば、SUMH が、MoU 失効後もしばらくシェムリアップで活動することを許可してほしいこと等をお願いしました。次官は、前回の MoU の更新時に許可を出し調印もしてくださった、University of Health Science の産婦人科の元教授で臨床家でもあり、SUMH のプロジェクトをよく知っておられ、私たちの話に真剣に耳を傾けてくださいました。そして、ドイツに出張中の州保健局長に電話をして、当会のスタッフの雇用が州保健局で可能かどうか等を聞いてくださいました。結局、次官が州保健局長、そして途中から同席した精神保健部長と話し合った結果、カンボジアに公的な地域精神保健センターを設立するために、SUMH に MoU を再度更新し、3年間活動を継続してほしいと要請されました。1年目にカンボジア全土に地域精神保健センターを普及させるためセンターのマニュアルを作成し、現在のシェムリアップ州病院内にある SUMH の精神科リハビリテーションセンターをカンボジア初の地域精神保健センターとすること、2年目以降は当会のスタッフを州保健局が雇用し、我々が地域精神保健センターを技術的に支援することで最終合意を得ました。

SUMH プロジェクトを現地に委譲するために、一昨年から理事会で議論を重ねてきました。無力感と徒労感に打ちひしがれるような話し合いが長く繰り返されました。そして、カンボジアで地域精神保健を向上させるため、地域精神保健センターを開設、普及するという発展的な目標によりやくたどり着くことができました。この約 2 年間は、まさに産みの苦しみであったと言って良いかと思います。会員の皆様におかれましては、今後どうかご支援をよろしくお願い申し上げます。

2. 「シェムリアップ地域精神保健センター」
の発足に向けて
2019. 10. 31～11. 5 のカンボディア交渉旅行
の報告

SUMH 理事 窪田彰

1. カモル氏との方針検討

「NPO 法人・途上国の精神保健を支援する会」の SUMH は、2019 年 11 月末でシェムリアップ州病院での NPO 活動の契約が切れるため、理事会としては今後この契約を SUMH は延長せずに、活動を州保健局に委譲することにしてはどうかと検討しました。今回は、その交渉のためにカンボディアへ青木理事長と私の 2 人で赴くことになりました。

シェムリアップ州で精神科リハビリテーション支援を始めて約 20 年が経ち、先年には現地責任者のピサル氏が癌で急逝され、私達の活動の転換期に来ていました。しかし、撤退するだけではこれまでの蓄積は無になってしまい残念です。なんらかの引き継ぎを模索したいと思っていました。

そこで、州保健局への引き継ぎの条件として、現状の備品は州に無償で引き渡し、必要ならば引き継ぎの期間の資金援助も考えて臨みました。また、1 年前からスイスのシルビアさんという心理師が、多くの基金を元にシェムリアップで精神保健の活動を始めておられると聞き及んでいました。この女性に引き受けてもらうことも、選択肢の一つでした。

10 月 31 日（木）午後にはプノンペンへ着いたものの保健大臣に会えるメドが立たず、副大臣となれば 4 日（月）には面会が可能かもしれないとなり、やむを得ず直ぐにシェムリアップに飛んで現地での交渉に臨み、3 日にはプノンペンに戻ることにしました。結局着いた 31 日の夕刻は、カモル氏と話し合うことに時間を使いました。

今回の課題は、州保健局に新たに仕事を引き継ぐとすれば、上の保健省の承認が必要だろうとの意見があったからでした。そこで SUMH の初期の研修を卒業したカモル氏が、10 数年後の今はプノンペンで政府内のポ

ストを得ており、彼の手配で保健大臣と面会できる可能性をもたらしてくれました。そこに期待をかけてカンボディアに行くことにしたのです。

そこで、私達の目標は①.現 SUMH 職員のバナック氏を州の公務員にすること。②.SUMH の機材等を州に寄付して、現在の州病院の精神科外来にある SUMH の拠点を「地域精神保健センター」として公的な活動に認めて欲しいこと。③.公的な場になれば、維持の責任は SUMH から外れるが、今後も日本からの教育面等の支援は続けること。④.SUMH は約 20 年に渡ってシェムリアップの地域精神保健を支援して来た。今後はカンボディア人自身による「地域精神保健センター」に移行すべきと考える。の 4 つの提案を考えていました。

この提案に対するカモル氏の意見は、その様な新しい提案には、ドキュメントが必要。

つまり約 200 ページ程度の活動マニュアルをクメール語で準備する必要がある。更に日本からの支援は継続する点を表明すると受け入れられやすい、とのアドバイスを頂きました。そして、バナック氏を公務員にするには、2 つのレベルがある。1 つは Government staff でこれになるには厳しい試験に合格しなくてはならない。2 つ目は、Contract staff で、これは任意に雇用できるが給与は月に 150 ドルで安い点が問題とのことでした。SUMH からは現在は月に 315 ドルが出ているので、減給になってしまいます。そこで経過措置として多少の給与補填が必要かもしれないとも考えました。また、カモル氏からの提案は、このドキュメントの作成には 2 万 5 千ドルを用意すれば、プノンペンの心理士のグループが作成できるので、それを日本側が監修すれば良いのではないかというものでした。また、これまでの青木先生と精神保健部長のソファール先生とのメールのやり取りの中でも 2 万ドル程度を用意して活動の指針を作る必要があると言われてきていたので、ドキュメント作成の慣習があるのだと推測しました。それにしても、多額の経費でありこの様なレポートを作るとすれば、これこそ私たち SUMH が書くのでなければならぬと思いました。これをプノンペンの心理士に 2 万 5 千ドルを出して書いてもらったのでは、私たちの活動の意義が問われると思いました。そもそも、プノンペンの心理士に書ける程度のものならば、私達がカンボディアまで行く必要があったのかと言えます。そこで、カモル氏やソファール先生の提案には、本文は私達が書くので監修やクメール語への翻訳等に力を貸していただく提案をすることとしました。



左から窪田理事、SUMH スタッフの Mr. Vannak, Ms. Savun

2. シェムリアップ州病院院長らとの面会

11 月 1 日には、シェムリアップに飛び、午後に州病院の院長にお会いすることが出来ました。院長先生との面会は良好な対応で、私達のこの活動を「地域精神保健センター」として公的活動に転換したいとの提案には賛成でしたが、州保健局長の同意が必要とのことでした。この様にスムーズに話が進んだのは、これまでの実績があり、私達は今後も何らかの形で支援は続けると表明したことで安心されたのかと思いました。その後、精神科外来に行き精神科部長のソバンナラ先生にお会いして、私達の提案を聞いていただきました。バナック氏を公務員にすることも否定的ではありませんでした。この時にお聞きしたのは州政府の公務員の給与は、精神科部長でも月に 250 ドルと低い水準とのことだった。残念なことには州保健局長はドイツに出張中で、お会いすることが出来ませんでした。また、SUMH が数年来の出張診療を続けてきたクララン病院の院長にもお会いしたかったのですが、スケジュールが合わず会えませんでした。

翌 2 日は土曜日で、私達もお休みで川の中にある遺跡を見学し、帰りにバナック氏の新築中の自宅を見せていただいたが、緑一杯の郊外に小ぶりな家を新築中でした。これでシェムリアップのアパートを出て、家賃がかからなくなると喜んでおり、私達も祝いの言葉を述べました。敷地の一角には養蜂の箱をいくつか置いており、ハチミツを作ろうとしていたことに私は興味をそそられました。

11 月 3 日は午後 3 時の便で、再びプノンペンに飛び、カモル氏の案内でプノンペンの心理士の女性に会うことになりました。面会の場所が何とプノンペンに最近出来た日本の企業による巨大イオンモールで、スーパーマーケットと言うよりは遊園地のようでした。そこはまるで日本でした。ここの喫茶店で、心理士から 3 枚のコピーでド

キュメント案を見せられました。全体の半分の 100 ページが伝統治療に当てられており、とても SUMH のレポートには見えませんでした。そこで主要な部分は SUMH として書きたいと表明し、翻訳等での協力をお願いする可能性があると話しておくに止めました。この心理士は以前ソティアラ先生の NGO である TPO にもいたことがあるとのことでしたので、4 日の午後にソティアラ先生にお会いした時に尋ねましたが、彼は「あの心理士に？」という反応でした。

3. 保健省副大臣との交渉

カモル氏と青木先生の働きかけのおかげで、ようやく 4 日の午前 10 時に保健省に来れば副大臣に面会出来ました。精神保健部長のソファール先生も同席可能との返事をいただき、会談が可能になりました。この日ばかりは、青木先生も私もスーツとネクタイをして臨みました。結局、1 時間近く待ちましたが、会議室で副大臣の Prof.ENG HUOT と秘書が対応して下さい、そこに 15 分ほど遅れて精神保健部長のソファール先生が参加しました。

はじめに、青木先生からパワポの紙資料を用いてプレゼンテーションを 20 分ほど行いました。プレゼンでは、私達 SUMH は 20 年近くシェムリアップの精神科リハビリテーションの支援を続け、この様な成果を上げてきた。この国がこの様に発展して来た今、カンボディアは自らの力で自らの健康を守る時代に来たと考えます。そこで提案ですが、シェムリアップの SUMH のリハビリテーション活動の機材を提供しますから、今の職員を公務員にして下さい。そうすれば外来とデイケアとアウトリーチ活動を合体して「シェムリアップ地域精神保健センター」にすることが出来ます。今や、ボランティア活動から公的の制度に移行すべき時が来たのだと思います、と概略述べました。ソファール先生は、2002 年の世界精神医学会で来日し「アジアの精神科地域ケア」のシンポジウムを私と共に討論した方でした。私達と共にアジアの精神科地域ケアを発展させようと語り合ったではないですか。それを今ここで実現しましょうと問いかけました。

しばらく話し合った後に副大臣は、シェムリアップ州保健局長に電話をかけて、この問題を話し合ってくれました。その結果、1 年後からなら SUMH の職員を公務員にしようとか意してくれました。

「地域精神保健センター」の必要性についての反論はなく、彼らもその方向が必要と考えたようでした。結局、今後 1 年間 SUMH の活動を継続すれば、1 年後には SUMH の職員を公務員にすると約束してくれました。

その上で、SUMH の NPO としての契約(MOU)がこの 11 月末で切れるのならば、あと 3 年間の延長をしてはどうかと提案されました。私達はこの活動を公的なものに引き継ぐから、あと 1 年で良いかと思っていましたら、その

2020 年（令和 2 年）1 月 1 日（年 2 回） SUMH
後も技術支援はしてくれるのでしょうかと言われ、了解した
のでした。こうして、思いもかけずおおよそ当初の目的
通りに正面突破が出来て、本当にうれしく思いました。
しかし、これを実現するには 1 年を待つことになり、更に
とてつもなく多くの時間とお金が必要となることに愕然た
る思いをいたしましたものです。



左から3人目が保健省次官 Prof. Eng Huot、5 人目が Dr. Sophal

4. 故ピサル氏のお墓参り

最後に、かつての現地代表で先年に亡くなられた故ピサル氏のお墓参りについてご報告します。11 月 2 日の午前バナック氏に車で、ピサル氏の妻のボリン先生のお宅に訪問しました。驚いたことに、ピサル氏のお墓は、家の玄関の中にありました。高さ約 2 メートルの仏舎利塔の様でした。そして傍らの写真には彼の功績をたたえる勲章がかけられていました。私達は墓前で手を合わせ、彼の精神科地域ケアへの功績をたたえました。

ボリンさんは昔の素朴な女性の印象とは変わり、いくらか華やかな感じの女性に変身していました。バナック氏からは、ボリンさんはピサル氏が亡くなってからとても長く悲しみの時期があり、その後変身したと語っていました。

そして、耳にしたのはピサル氏の息子「デンピッチピサル氏」のことです。どうも日本に留学しているらしいということでした。ボリンさんはそのことを語りませんでした。バナック氏からの情報でした。もし事実ならば、日本にいるならば、ぜひお会いしてみたいと思います。そして、彼のお父さんがどんなに立派な人で、私達と共に活動し私達をいかに助けてくれたかを、彼に語りと思っています。

4. SUMH の今後の展開、理事会報告

SUMH 理事 丸谷俊之

2019.11.24 SUMH 理事会 議事録

参加者 青木、窪田、宮本、青木（利）、海内、丸谷（書記）

10.31-11.05 緊急訪問（青木、窪田）

11.04 保健省次官訪問、精神保健部長 Sophal 氏も加わる。シェムリアップ州保健局長（ドイツ出張中）には電話で話をしてくれた。

マニュアル（クメール語）の作成の要請。

Vannak と Savun を SUMH で雇用継続。

コミュニティメンタルヘルスセンターに名称変更（外来部門も入れる）

2021.12 または 2021.1 頃（詳細な日付は未確定、「1 年後から」）～二人とも州保健局職員（contract staff）になる予定。

その後もスーパービジョンなどのサポートするということで、MoU は 3 年に。

Sophal 氏の協力を得るため、「ハンドオーバー」という表現は使わない、新しい制度を作ることに協力する、ということにする。

マニュアル作成については、翻訳は日本に日本語→クメール語への翻訳可能である。

日本の支援者に日本語版が必要。

コンサルタント料、監修料を Sophal に払う。

カモルもコンサルタントにしてほしい、と。何らかの形でコンサルタント料を支払う。

情報省顧問 Kamol 氏が窓口になる。

Vannak への給与補填は、2021.1 月（頃）に政府に雇用されてからの話。2 年程度の予定。奨学金ではなく、給与補填で。1 年で再検証しては。

Contract staff 150 ドル/月、今は増額されボーナス入ると平均 200～250 ドル/月のよう。

Sylvia 氏は家族療法を 40～100 例に行って研究をしたい。SUMH の活動を引き受ける気はない。スイスでドナーも 1 名しか見つかっていない。

SUMH の終了式とあたらしいリハビリテーションセンターの開所式は、費用は政府持ちで実施する予定。

州病院の精神科は別の病棟へ移る予定（JICA のプロジェクトで建設される外科病棟の中に入る予定）。

Sophal からの提案、看護学生、医学生向けのトレーニングカリキュラムの作成をしてほしいという話があり、

2020 年（令和 2 年）1 月 1 日（年 2 回） SUMH
とりあえず話は聞いた
次回理事会
12/22(日)16 時～ 錦糸町小ホール

2019.11.24 SUMH 総会 議事録

書記:理事 丸谷 俊之

参加 6 名(青木, 窪田, 宮本, 青木(利), 海内, 丸谷)
委任状 12 名
定員 49 1/3 17 以上必要 18 名, 成立。

2018 年度事業報告書 確認

訂正:合計 95,960 円

2018 年度収支計算書 確認

問い合わせに対応し会の活動等説明した場合, 今後は, 1 時間の説明に対し, 3,000 円の寄付をお願いするのはどうか。

2018 年度会計貸借対照表 確認

2018 年度会計財産目録

訂正:修正必要(後日, 額は同じ)

監査報告:問題なし

2019(令和元)年度事業予算書 確認

訂正:Ⅱ.支出の部 1 事業費 研究費→マニュアル作成費に訂正

2019 年度活動計画 確認

1.訂正:～活動は, 2020 年末を目途に, 公的なコミュニティメンタルヘルスセンターの設立の支援とする。

2.ニュースレターの発行頻度は 3 回→2 回/年

役員名簿

訂正必要

以上, 訂正を行うことで出席した理事全員の同意が得られた。

SUMH の会員として、また募金によって一緒に途上国の精神保健を支えてください。

【年会費】一般 10,000 円 賛助・学生 5,000 円

【会費・募金の振込先】

銀行振り込みの場合

銀行名:楽天銀行 第二営業支店

口座名:特定非営利活動法人 途上国の精神保健を支えるネットワーク

口座番号:普通 7385345

郵便振替の場合

加入者名:途上国の精神保健を支えるネットワーク

口座番号:00170-2-535294

ニュースレター第 51 号

郵便振替は振替用紙に、住所・氏名・Tel & Fax・E-mail・会費と募金のいずれか・SUMH へ一言を明記の上、お振り込み下さい。

SUMH日本事務局

〒130-0013 東京都墨田区錦糸 3-5-1

錦糸町北口ビル 3F

TEL 03-3812-0736

HP: <http://sumh.org/>

SUMH Cambodia

Actual Address,

Mental Health Rehabilitation Center,
in Siem Reap Provincial Hospital,
Mundol Moi, Siem Reap, Cambodia

Postal Address:

P.O.Box 93102 G P O Siem Reap Angkor, Cambodia

編集後記

SUMH は現在、現地活動をカンボジアの公的制度に根付く活動にするための支援のフェーズにあります。本年度は今後の SUMH の方向性を決めるために何度も理事会で討議し続けた非常に苦しい 1 年でした。その討議は今回の現地訪問を経て地域精神保健の公的システム化という新たな目標に向かうことになりました。これからも現地と共に、カンボジアのより多くの人々に地域精神保健を届けることができるように支援を続けて参りたいと思います。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。私自身は、他国の人々ために尽くした中村哲医師や学生時代から背中を追いかけてきた SHARE は SUMH の方向性を考えるにあたりとても大きな存在でした。これからは人々のために何ができるのかを問い続けていければと思います。世界は気候変動により様々な災害が生じています。また今年に入り新型肺炎が世界中で拡大しつつあります。早く収束し、今年は災害の少なくなりますようにと思います。(青木利江子)